

# 【新着資料案内】

この資料は、平成9年10月中に行政情報センター・統計資料コーナーに到着した主なものです。ご利用ください。

行政情報センター 本庁舎地下1階 TEL 029-221-8111(内線 2238・2239)

| 行政資料名  | 発行所(者)  | 行政資料名   | 発行所(者)  |
|--|---|---|---|
| <b>中央省庁関係</b>  |   | 年報 第3号 平成8年度 1996~1997<br>県公営企業会計決算審査意見書 平成8年度<br>職員等採用試験結果、茨城県 平成8年度<br>職員の給与等に関する報告、勧告及び意見<br>県出資法人概要   | 自然博物館<br>監査委員会<br>人事委員会<br>〃<br>開発公社  |
| 個人企業経済調査年報 平成8年度<br>警察白書 平成9年版<br>管内経済統計年報 平成9年版<br>母体保護統計報告 平成8年<br>農村地域環境総合類型別 第12巻 第1~3集 1995<br>本邦鉱業の趨勢 平成8年<br>毎月勤労統計調査年報 平成8年<br>建設工事施工統計調査報告 平成7年度<br>公共工事着工統計年度報 平成8年度 | 総務庁<br>警察庁<br>関東財務局<br>厚生省<br>農林水産省<br>通商産業省<br>労働省<br>建設省<br>〃 | <b>県内市町村等関係</b><br>統計いしおか 平成8年版<br>水海道市統計書 平成9年度版<br>統計たかはぎ 平成8年版   | 石岡市<br>水海道市<br>高萩市  |
| <b>茨城県関係</b>   |   | <b>都道府県等関係</b><br>住民基本台帳に基づく人口移動調査年報 平成8年<br>秋田県鉱工業生産指指数年報 平成8年<br>グラフで見る彩の国さいたま 平成8年度<br>埼玉県鉱工業指指数 平成8年<br>千葉県年齢別・町丁字別人口 平成9年度<br>東京都刊行物目録 平成8年度<br>東京都鉱工業指指数年報 平成8年<br>交通・産業立地課<br>統計課<br>生活文化課<br>〃<br>消防防災課<br>環境対策課<br>女性青少年課<br>精神保健福祉センター<br>労政課<br>蚕業研究所<br>畜産試験場山間地支場<br>霞ヶ浦北浦の水産<br>霞ヶ浦北浦水産加工業の現況 平成8年<br>霞ヶ浦北浦における養殖業の現状 平成8年<br>茨城県の漁具漁法<br>水産試験場業績集、茨城県 1995年<br>〃 1996年<br>茨城の蚕糸業 平成9年版<br>生活排水ベストプラン<br>よみがえる水<br>建築・開発行政概要 平成8年度版 | 宮城県<br>秋田県<br>埼玉県<br>〃<br>千葉県<br>東京都<br>〃<br>神奈川県<br>岐阜県<br>〃<br>京都府<br>大阪府<br>鳥取県<br>島根県<br>山口県<br>宮城県<br>秋田県<br>埼玉県<br>〃<br>千葉県<br>東京都<br>神奈川県<br>岐阜県<br>〃<br>京都府<br>大阪府<br>鳥取県<br>島根県<br>山口県 |
|  |   | <b>会社・公社・団体等関係</b><br>歴史と民族 14<br>地域経済総覧'98<br>データでみるいばらき 1997  | 神奈川大学<br>東洋経済新報社<br>研究センター  |

## 統計担当者となつて

岩井市市長公室情報管理課 主幹 茂 呂 雪 江

今年4月の人事異動に伴い統計を担当することになりやっと半年を迎えたところです。

初仕事が市統計調査員協議会における、1泊2日の研修でした。調査員のかたがた殆どが初体面でしたが、皆さんの役割や数々の苦労話など、和気藹々のなかにもたくさんのこと学びました。

7月16~18日には都市統計事務協議会で愛媛県松山市と善通寺市を視察しました。松山市は人口462280人の大都市で登録調査員は456名、現調査員の口込み、また30~40代の主婦を一般公募しているそうです。国勢調査の際は調査員3000名を要するため広報等で募集、残りは職員が対応、前回において調査拒否が全体の5%あったそうです。

善通寺市は人口37085人で、登録調査員制度がないため各調査の都度前回の調査員に依頼し、不足を職員で補っているそうです。松山市においても同様ですが、調査員の確保については四苦八苦しんでいるようです。

この研修は、県内20市より18名が参加、先進地の視察とともに、調査拒否の対処、調査員さんとのコミュニケーションのとり方、統計情報誌の発行など各市の担当者の皆さんと情報交換ができ、参加できてよかったです。

岩井市は、登録調査員126名で全員が統計調査員協議会の会員です。また、各地区の区長推薦のため調査員も地区に分散しており調査もスムーズに行うことができます。7月末、7日間に渡り各地区での研修会を実施しました。初めての試みでし

たが、80%以上の出席によって調査員の皆さんのが身近な意見を聞き、コミュニケーションもとれて、よい成果を得ることができました。ただひとつ問題となることは、調査員の高齢化ですが、現時点では地域上やむをえないのではと思います。

振り返ってみると、たった半年ですが各研修ばかりでなく、6月に実施した商業統計調査、その他無我夢中でやってきました。企業活動が複雑多様化し、家族構成、住居形態が変化し家計が個計化するなど、様々な要因によって社会は大きく変化し、また調査環境が変化していく中で、時代のニーズに合った統計調査を行っていくことはとても大切なことだと思います。私自身、目前のこと新鮮に見えている今から、統計調査に携わる者としての心構えをしっかりととともに、社会の変化に対応できるよう努力していきたいと思います。

## 国内の動き

### ● 日銀短観9月 景況感悪化

日銀が1日発表した9月の企業短期経済観測調査(短観)で企業の景況感の悪化が鮮明になり、緩やかに回復してきた景気の先行きに懸念が強まっている。景況感の急激な悪化をもたらした最大の誤算は、企業や政府・日銀の予想を超える消費の落ち込み。日銀OBの賀来景英・大和総研副理事長は「実勢で2%の実質成長ペースを維持するのが望みうる最高のシナリオだったが、下振れリスクが相当高ま

### ● 来春大卒内定13.8%増

日本経済新聞社が21日中間集計した主要企業の98年度新卒採用内定調査によると、大卒内定者数は97年度実績比で13.8%増と2年続けて2ケタの高い伸びを維持した。特に女子は前年度比22.8%増と「氷河期」と言われるほど採用を減らした時期を脱しつつある。文科系が理工系を上回る高い伸びを示したのも、今年度の特徴である。

調査は製造業410社、非製造業362社の計772社から回答を得た。製造業は電機や自動車が高い水準を維持し18.5%増。

### ● 老人保健施設 入所定員28%増

厚生省は25日、96年10月までの1年間で痴ほうや病弱の高齢者の家庭復帰を支援する老人保護施設が26.9%増えて1,517カ所になったと発表した。入所定員数は28.6%増の132,446人になった。ただ、厚生省が99年度末を目指している収容人員は28万人分で、達成率は47%にとどまった。

厚生省は家庭の受け入れ態勢が不十分なことなどから、

った」と分析する。

消費低迷が長引く中で、当面の景気を支えるのは設備投資だ。製造業の投資計画の伸びはまだ前年より高い。日銀は「回復基調は崩れていない」と設備投資の底堅さを頼みにしている。設備投資と輸出増が景気を下支えする内に、個人消費が立ち直り積み上がった在庫の調整が進むかどうかが、綱渡りの回復のカギを握る。(10月2日付 日経)

非製造業も百貨店・スーパーなどを中心に10.1%増えた。

男女別に見ると特に基幹社員候補である総合職では女子が29.5%増と大幅に伸び、女子の戦力化を狙った企業が増えている。

ただ、景気の足踏み状態が企業の採用意欲に水を差す恐れもあり、来年の就職戦線の見通しは不透明だ。

(10月22日付日経)

高齢者が病院に長期入院する「社会的入院」を減らそうと老健施設の設置に力を入れている。国が2000年度から導入を目指している公的介護保険制度では、老健施設は施設介護の中核を担うためだ。介護需要が増加すると見込み、病院を運営する医療法人や社会福祉法人は開設を急いでいる。

(10月26日付日経)

## 県内の動き

### ● 97年上期の県内工場立地 件数・面積とも減

茨城県が15日発表した97年上期の工場立地動向によると、県内の新規立地件数は20件で前年同期に比べ15件減少した。立地面積は計40.1ヘクタールと同22.9ヘクタールの減少。今期の特徴としては、5ヘクタール以上の比較的大規模な立地が前年同期の4件(36.3ヘクタール)から1件(16.0ヘクタール)と大幅に減ったことがあげられる。

業種別に見ると、食料品、一般機械器具、電気機械器具の各製造業がいずれも3件ずつ立地した。面積では、電気

機械器具が計19.2ヘクタールと全体の半分近くを占めた。次いでプラスチック製品5.5ヘクタール、食料品5.3ヘクタールだった。地域別では県北が11件、28.8ヘクタールを占めた。

景況感が悪化する中で、工場立地も前年までの回復傾向から後退を余儀なくされた格好となった。

(10月16日付日経)

### ● 県内景気、減速感強まる

日銀水戸事務所は30日発表した最近の茨城県内の金融経済概況で「(県内経済は)減速感が強まっている」と指摘、前月の「回復基調を続けているがそのテンポは鈍化している」との景気判断を改めた。これは、これまで景気をけん引してきた企業の生産活動が変調したため。8月の鉱工業生産は前月比8.4%減。前年同月比の伸び率も7月から大きく低下した。

駆け込み需要の反動も予想以上に長引き、9月の乗用車新車登録台数では前年比マイナス6.9%と6カ月連続の前年割れ。8月の新設住宅着工件数も前年同月比24.9%の大減、7カ月連続の前年割れと回復のめどが立たない状況だ。

最近の株安が個人消費や設備投資に影響を及ぼす可能性もあり、県内景気は後退局面入りする恐れも出てきた。

(10月31日付日経)

# ふるさとおもしろ統計学

## 高齢者の交通事故

## 死亡する危険性が高い

みなさんは道を歩いていたり、自動車を運転しているときなどに、ヒヤリとしたり、ハッとしたことはありませんか。私たちの周りでは、毎日たくさんの交通事故が発生しています。

平成八年の県内の交通事故による死者数は385人。年齢層別にみると65歳以上の高齢者層は113人（全年齢層の29.4%）と昭和62年の64人（18.2%）に比べ49人（11.2ポイント）急増しており、これは人口一万人当たりの交通事故死者数でみると、図に示すとおり全年齢層の実に二倍になっています。

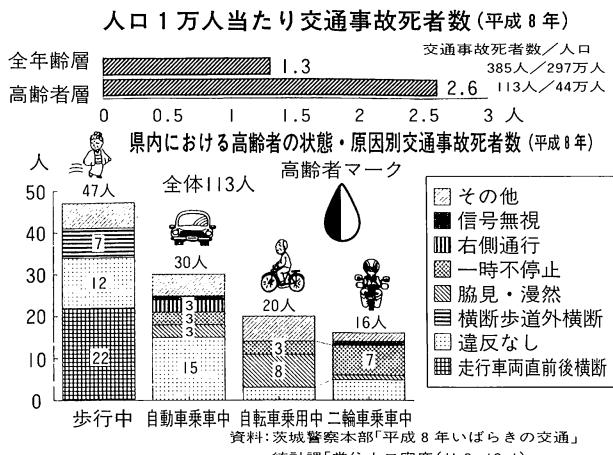
どのような状態で死亡事故にあったのかをみると、歩行中が47人と圧倒的に多く、次に、高齢ドライバーの増加とともに自動車乗車中が30人と大きな人数となっております。さらに原因別にみると、歩行中では走行車両直前後横断22人、自動車乗車中では違反なし15人（同乗者など）、自転車乗用中ではわき見まん然運転8人、二輪車乗車中では一時不停止7人などが高い割合となっています。

高齢者は、個人差はあるものの若いときに比べ判断能力が低下し、体力も衰えてきています。そのため、交通事故にあった場合、負傷にとどまらず死亡に至る危険性が全年齢平均の約3.3倍と著しく高くなっています（県警察本部「平成8年いばらきの交通事故」）。

平成8年の65歳以上の高齢ドライバー数は13万5755人、これは昭和62年と比べ約2.5倍、運転免許保有者全体の7.7%になります。

今回、道路交通法の改正により先月30日から、75歳以上の高齢ドライバーはマイカーに高齢者マーク（紅葉マーク）を表示するように努めなければならないとされました。交通事故を防止するため、一般ドライバーは、高齢者マークの張（は）ってある自動車には幅寄せ、割り込みをしない、また、歩行中や自転車に乗っている高齢者のそばを通るときには速度を落としたりして高齢者に対する思いやりのある交通マナーを心がけましょう。

（県統計課）平成9年11月7日掲載



※「ふるさとおもしろ統計学」は隔週金曜日、茨城新聞に掲載されています。

## 8020運動

## 幼児期から歯磨き

最近は、グルメブームで食生活も多様化していますが、なんといっても食生活を楽しむためには、歯が健康でなくてはなりません。

ところが、児童・生徒の若年層でもほとんどの人がむし歯を持っています。平成8（1996）年度の「学校保健統計調査」によると本県では、幼稚園82.3%，小学校87.7%，中学校84.9%，高等学校91.9%の者がむし歯を持っているという非常に高い数字が出ています。全国比では、幼稚園8.6%，小学校2.0%，中学校0.1%，高等学校1.8%とすべての学校で、全国を上回っています。本県では特に、幼稚園で大きく上回っているのが気になります。また、幼稚園では、未処置の歯を持っている者が、実に56.2%と半数を超えてます。特に注目すべきは平成8年に実施した総務庁の「家計調査結果」によると、水戸市の例ですが、菓子類の消費量が全国で第6位と上位に位置しています。中でもチョコレートとせんべいの消費量は全国第1位を誇っており、このこととむし歯とが大いに関係があるように思えます。ただ、最近の傾向としては、むし歯保有者率が次第に減少しております。改善の方向に向かっていると言えます。これは、歯科保健指導の普及で、正しい歯磨きの方法が浸透してきたためと思われます。

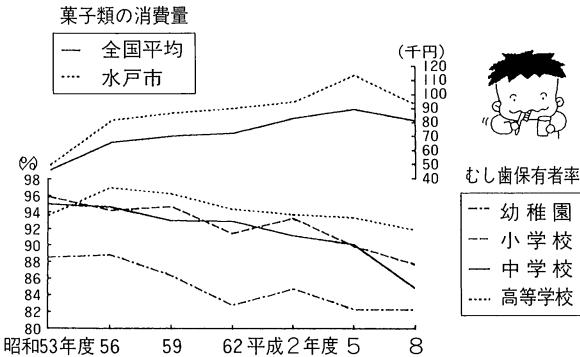
近年は、平均寿命も延びて、人生80年となり歯との付き合いもより長くなっています。ところで皆さんには「8020運動」という言葉をご存じでしょうか。これは、80歳までに自分の歯を20本残そうという運動です。ところが、厚生省の「歯科疾患実態調査」によれば70歳で喪失歯数が約20本という状態で、理想とはほど遠いものとなっています。

むし歯の予防は、何といっても毎日の歯磨きが一番です。健康な歯を保つためには幼児期から将来を見据えての歯磨きが必要です。

乳歯の健康と永久歯の健康は無関係ではないと言われています。

小さなお子さんをお持ちの皆さん、ご家庭では特に歯の健康には十分気を付けてあげてください。（学校保健統計調査結果などより）（県統計課）平成9年11月21日掲載

## 菓子類の消費量と児童・生徒のむし歯保有者率の推移



## 工業統計調査が実施されます

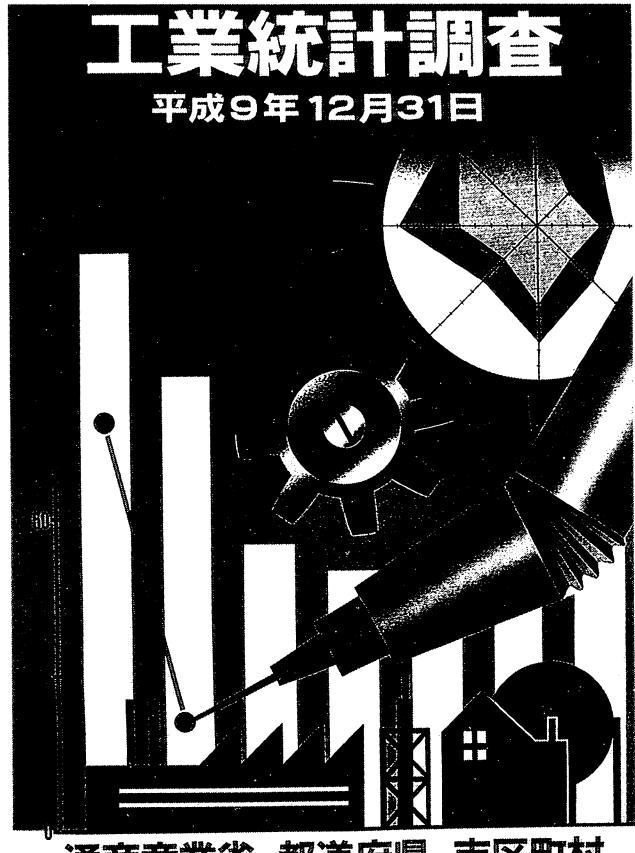
通商産業省では県と市町村を通じて、平成9年12月31日現在で「工業統計調査」を実施します。この調査は、わが国の統計調査では重要なもの一つです。

工業統計調査はわが国製造業の事業所を対象とし、その実態を明らかにすることを目的として、毎年12月31日現在で実施されるものです。調査結果は製造業の実態を構造的に分析し、国・県・市町村が行う各種施策立案の基礎資料となるだけでなく、大学や民間企業など国民生活の幅広い分野で活用されています。

本年は製造業を営む事業所の中で、従業者4人以上の全事業所と従業者3人以下の定められた業種の事業所とが調査対象となり、事業所数、従業者数、製造品出荷額、原材料使用額などの項目について調査します。

また、従業者30人以上の事業所では、燃料や電力などエネルギー消費の実態を調査する「石油等消費構造統計調査」も合わせて実施します。調査結果は石油を中心とするエネルギー需要の調整計画や地球温暖化などの環境問題の分析など各種行政施策立案の基礎資料として重要な役割を果たしています。

これらの調査の対象となる事業所には、県知事から任命された統計調査員がお伺いし、調査票の



通商産業省 都道府県 市区町村

配布・回収を行います。調査時期が年末年始の忙しいときにあたり、事業所の皆様には大変お手数をおかけしますが、調査員がお伺いした際にはよろしくお願ひいたします。

(統計課・商工農林グループ)

### 編集後記

年賀状の季節がやってきました。

筆記具メーカーのパイロットが行った調査によると、年賀状に使う筆記具のベスト3は、サインペン(31%)、ボールペン(24%)、ワープロ・パソコン(20%)順。確かにワープロなどは便利で文字もきれいですが、もらってうれしいのはやはり手書(75%)。

どちらがいいのか毎年悩んでしまいます。(D S)

### 統計いばらき

1997.12 No.524  
平成9年12月発行

編集兼発行/茨城県企画部統計課

茨城県統計協会

〒310 水戸市三の丸1丁目5番38号

電話 029-221-8111(内線)2651,2652

029-221-5505(直通)

FAX 029-228-0961

印刷所/富士オフセット印刷株式会社